

放射線被ばくを考える

～子どもたちは、大人は？～

3・11東北太平洋沖地震と津波は大きな被害をもたらしました。さらに、この地震でこれまで安全と言われていた原子力発電所（東京電力福島第一原発）の事故により、大量の放射性物質が漏出され、大気・海水・土壌が汚染されています。事態が長期化する中、正確な情報も不十分であることから、生活や健康への不安を抱いている方は少なくありません。特に、子育て中の方や妊娠中の方の不安ははかりしれません。

東京・金町浄水場では、水道水から乳児の基準を超える放射性ヨウ素 131 が検出され、乳幼児の水道水摂取を控えるために飲料水が配られたことがありました。文部科学省は福島県内の学校等の公社・校庭などの利用判断基準を年 20 ミリシーベルトとすると発表しましたが、安全基準とは何なののでしょうか？

今、何が起きているのか、放射線被ばくとはどういうことなのかを分かりやすく学ぶために、NPO 法人市民科学研究室代表の上田昌文さんを講師にお招きして、学習会を行います。

お子さんがいらっしゃる方、妊娠されている方、放射能について学習したい方、たくさんの方のご参加をお待ちしています。

日時：7月3日(日)10:00～12:00

場所：府中市民会館 ルミエール第1・第2講習室(1階)

託児ご希望の方は事前にご連絡下さい。

問合せ：府中・生活者ネットワーク (TEL)042-360-4443

上田昌文さん NPO 法人市民科学研究室代表。大学で生物学を専攻。市民科学研究室の前身である「科学と社会を考える土曜講座」という名の市民による研究・学習グループを発足。

2005年～2007年に東京大学「科学技術インタープリター養成プログラム」特任教員。出産・子育て支援のコミュニティウェブ「ベビーコム」のエコロジーページの執筆・監修者なども務める。

